

海浜における御用邸の配置計画に関する研究

Study on the deployment plan of the Imperial Villa in the beach

佐藤信治¹, ○門口稚奈²Shinji Sato¹, *Wakana Kadoguchi²

The Imperial Villa, in the emperor and royal villas, several times a year, visit in summer and Snowbird also serves as a rest.

On the Finance Act belong to the imperial family for the property, the Imperial Household Agency to manage this.

In the definition of the Imperial Household Agency, the palace those having the buildings and grounds of a certain scale, the other hand, is referred to as the Imperial Villa things small.

1. はじめに

御用邸とは、天皇や皇族の別荘で、年に数回、静養を兼ねて避暑や避寒で訪れる。

財政法上は皇室用財産に属し、宮内庁がこれを管理する。

宮内庁の定義では、一定規模の建造物と敷地を有するものを離宮とし、それに対し、小規模のものを御用邸と称している。

2. 研究対象

現在使用されている御用邸は、那須、葉山、須崎の3か所ある。かつて存在した御用邸は、神戸、熱海、伊香保、山内、沼津、宮ノ下、田母沢、鎌倉、静岡、小田原、塩原の11か所である。

現在使用されている御用邸、かつて使用されていた御用邸の合わせて14か所の中から海辺に建築された、葉山、須崎、熱海、沼津の4か所を取り上げ研究する。

Table 1. Imperial Villa List nationwide

	所在地	創設年	現存状況
那須	栃木県 那須	大正15 1926	○現存
葉山	神奈川県 葉山	明治26 1893	○現存
須崎	静岡県 下田	明治46 1971	○現存
神戸	兵庫県 神戸	明治19 1886	×1907年払下
熱海	静岡県 熱海	明治22 1889	×1931年下賜
伊香保	群馬県 伊香保	明治23 1890	×戦後払下
山内	栃木県 日光	明治26 1893	×1947廃止
沼津	静岡県 沼津	明治26 1893	×1969年廃止, 下賜
宮ノ下	神奈川県 箱根	明治28 1895	×1934年高松宮へ移譲
田母沢	栃木県 日光	明治31 1898	×1947年廃止, 下賜
鎌倉	神奈川県 鎌倉	明治32 1899	×1924年1931年下賜
静岡	静岡県 静岡	明治33 1900	×1930年廃止, 1932年下賜
小田原	神奈川県 小田原	明治34 1901	×1930年廃止, 払下
塩原	栃木県 塩原	明治37 1904	×戦後厚生省へ払下

3. 海浜における御用邸

葉山、須崎、熱海、沼津御用邸のどちらにおいても、海との距離は近く、海の様子はおだやかであると言える。また、須崎御用邸内にはプライベートビーチがある。利用時期としては、葉山御用邸は、主に2-3月に利用されており、天皇皇后両陛下は、今年の2月5日から10日まで葉山御用邸で静養されていた。須崎御用邸は、主に7-8月に利用されており、毎年皇太子ご一家が夏休みに須崎御用邸で静養されている。熱海御用邸は、主に冬期に訪れており、邸内には温泉が引かれていた。沼津御用邸は夏期は海水浴、冬期は避寒として訪れていた。設計者は、葉山御用邸は、平島二郎、須崎御用邸は、松田軍平。沼津御用邸は、宮内庁匠寮の技手、安藤栄次郎が設計し、1900年に増設されたルネサンス様式の洋館は、宮内庁匠寮の片山東熊、河面徳三郎が設計したと言われており、小規模ながら明治後期における宮廷建築の一事例として建築史に残るような建物であったと言える。

Table 2. Relationship with the sea

	海からの距離 (水平)	海からの距離 (垂直)	海の様子
葉山	100m	10m	おだやか
須崎	200m	48m	おだやか
熱海	300m	409m	おだやか
沼津	50m	4m	おだやか

Table 3. Use time and designers

	利用時期	設計者
葉山	2-3月	平島二郎
須崎	7-8月	松田軍平
熱海	冬期 避寒として	不明
沼津	夏期 海水浴 冬期 避寒として	安藤栄次郎 片山東熊 河面徳三郎 (増設された洋館)

1 : 日大理工・教員・海洋建築工学科 Department of Oceanic Architecture & engineering, CST., Nihon-U,

2 : 日大理工・学部・海洋建築工学科 Department of Oceanic Architecture & engineering, CST., Nihon-U,

4. 沼津御用邸の配置計画

沼津御用邸は明治 26 年の新築以来、数回の増改築を行った結果、最終的には 100 室以上の部屋を備えることになった。その間、部屋の使われ方も一部変更され、御玉突所のように移築されることもあった。本

邸のあった位置は用地のほぼ中心で、建築面積は、約 4000 平方メートルである。海に見える南側には御座所、食堂、寝室が配置されている。



1 表御座所	20 御寝室	39 判任女官食堂	58 便所	77 玄関
2 御陪食食堂	21 御次ノ間	40 呉服所	59 薪炭置場	78 応接室
3 侍従候所	22 御拭所	41 雑仕詰所	60 湯沸所	79 内閣詰所
4 御玉突所	23 皇后宮御湯殿	42 食堂	61 電工工夫詰所	80 受付ノ間
5 御拭所	24 物置	43 雑仕室	62 火鉢置場	81 主殿寮詰所
6 御湯殿	25 典侍室	44 女官候所	63 小鳥部屋	82 内大臣府侍従武官府詰所
7 皇族候所	26 権典侍室	45 高等女官食堂	64 省丁部屋	83 総務課詰所
8 侍従候所	27 掌侍室	46 御菓子置場	65 厨司詰所	84 官房詰所
9 侍従詰所	28 権掌侍室	47 供進所	66 調度掛詰所	85 主務官室
10 御寝室	29 命婦室	48 調理場	67 内匠寮詰所	86 物置
11 御次ノ間	30 権命婦室	49 薪炭置場	68 臣下昇降口	87 菓丁室
12 御座所	31 湯殿	50 物置	69 内蔵寮詰所	88 御菓室
13 御次ノ間	32 局入口	51 魚精詰所	70 内舎人詰所	89 薬剤所
14 御食堂	33 応接室	52 主膳監室	71 侍従職省丁詰所	90 侍医室
15 内謁見所	34 雑仕室	53 大膳詰所	72 呉服裁縫所	91 侍医寝室
16 皇后宮大夫	35 湯殿	54 湯殿	73 皇后宮職省丁詰所	92 侍従武官室
17 御化粧ノ間	36 判任女官室	55 洗面所	74 皇后宮職詰所	93 侍従武官長室
18 御座所（皇后宮）	37 物置	56 高等官湯殿	75 皇后宮主事室	94 秘書官室
19 御次ノ間	38 申ノ口	57 判任官湯殿	76 御車寄	95 侍従室

Figure 1. Plan view of Numazu Imperial Villa

5. 参考文献

- [1] 「沼津御用邸百年誌」, 沼津市, 1994
- [2] 「沼津御用邸新築百分一地図」, 東京都立図書館木子文庫所蔵